

天ぷら油火災の消火

1 消火器があれば消火器で消火する。

※ このとき、消火器の薬剤を鍋の近くで噴射すると、噴射の勢いで中の油が飛散し危険ですので、少しはなれた場所から徐々に近づいて消火するか、壁などに当てて噴射の勢いを弱めて消火する。

2 こんろの火を止め、鍋を覆うふたをして、空気の遮断を消火する。

※ ただし、すぐにふたを開けると再び発火するおそれがあるので、油の温度が十分下がるまで、ふたを開けないこと。

3 濡れたシーツや大きめのタオルを使用して、

ゆっくり鍋全体を覆い、空気を遮断して消火する。

※ このとき、炎でやけどしたり慌てて鍋をひっくり返したりしないよう注意する。



4 シーツ等による消火の手順

① シーツを水バケツに浸し、軽く絞る。(水滴が落ちない程度)

② やけどをしないようにシーツを掴んだ手を、手前にひとひねりさせて手を包み込ませる。



③ 体の前面にシーツを広げ、少しずつ近づきながら、思い切り手を突き出し、フライパンにシーツをゆっくりと覆いかぶせる。(このとき炎でやけどしたり、あわててフライパンをひっくり返さないように注意する。)

○シーツのかけ方



※ シーツの裾を足で踏みつけ、シーツを体前面に張る方法もあります。



- ④ シーツの乾き具合を見ながら、コンロ周辺をシーツで押し込み、空気もれがないようにようにします。
- ⑤ シーツの上からガス台のスイッチを「切」にする。（「切る」動作をして体に覚えこませる。）

×悪い例（手や体がシーツから出ていたりすると、体を守れてなく危険です。）



訓練での注意点

- 風下の住宅等との距離を十分とる
- 燃料用の油類の容器は、10m以上離し密栓する
- 点火は専用の点火棒を使い、風上から点火する
- 万がーのため、消火器を用意する

※ 濡れたシーツを使った消火はあくまで、緊急的なものです。

実際の火災で消火器が近くであれば、消火器で消火しましょう。

※ 火災をおこさないためにも、天ぷらを揚げているときは、

コンロの前を離れないようにしましょう。